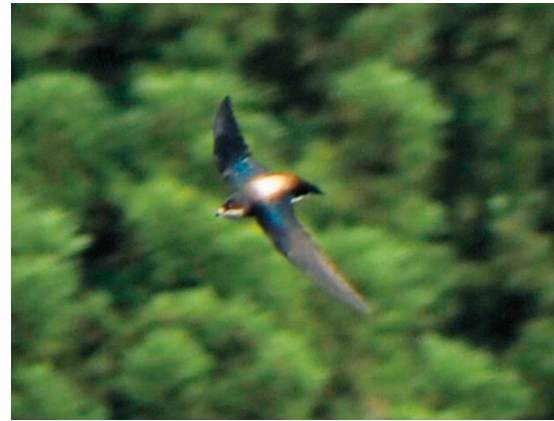


(写真・文 太田祥作)

## ハリオアマツバメ

(学名：Hirundapus caudacutus)

【アマツバメ目アマツバメ科】



▲ 腹面は下尾筒(注)の白色が目立つ。ずんぐりとした体も特徴的

▲ 背中とはぼんやりとした灰色。翼は青緑色の光沢を放つ

アマツバメという鳥がいます。ツバメという名前がついていますが、身近なツバメとは異なる仲間の鳥です。細長い鎌のような翼を使ってとても速く飛ぶことができます。なんと睡眠や交尾すらも飛びながら行うことができ、空中生活に極めて適応している鳥なのです。

今回ご紹介するハリオアマツバメは、繁殖のためにオーストラリアなどから日本に渡ってくる夏鳥です。只見町では6月頃から見られるようになります。アマツバメの仲間に特有の鎌状の翼をもつほか、本種の特徴として額や喉、下尾筒(注)が白いことや、背中の灰色などが挙げられます。尾羽は短く角張っていますが、その羽軸は硬く針のように突出しており、「針尾」となっていることが和名の由来です。

ハリオアマツバメを観察できる機会は、雨の降り出しそうな夕方です。餌となる昆虫を求めて山から下りてくるため、集落上空でも観察できることがあります。また、山麓の池沼では夕方、飛びながら水面に軽く触れるようにして水を飲む「飲水行動」が観察できることもあります。

ハリオアマツバメは営巣場所として、大木の樹洞や割れ目を利用します。そのため、繁殖には成熟した森林が必要です。只見町の天然林は、ハリオアマツバメにとって好適な営巣地としての機能を果たしていると考えられます。

注：鳥類の尾羽の付け根の羽毛。背面のものを上尾筒、腹面のものを下尾筒という

### 只見町ブナセンターからのお知らせ

6月は下記の日程で野鳥観察会を開催します。ぜひご参加ください。

日 時：2022年6月26日(日) 9:00~12:00

観 察 地：只見湖・新田沢

集合場所：ただみ・ブナと川のミュージアム駐車場